

公共交通を考える ワークショップのまとめ

利用促進班

利用促進班で話し合いたいこと（ワークショップの最初のお願ひ）

公共交通を維持・活性化していくためには、
公共交通をもっと利用していただくことが大事



「公共交通の利用促進に向けた考え方」「必要な施策」「優先的に実施すべき施策」
「誰がその役割を担うか」などについて議論



利用促進に向けた基本的な考え方（第1回ワークショップ）

公共交通の利用を促進すべき

- ・車を使わない人も、だれもが移動できるように
- ・環境のためにも大事
- ・公共交通を利用すれば、コミュニケーションが図られることもある



やらないといけないこと（第1回(第3回)ワークショップ）

- ・マイカーは極力排除しないといけない（安易に使わない、ものぐさ利用は無くすべき）
- ・利用を阻害する要因をなくすことが必要
- ・みんなが使うような工夫を

どうしたらいいか？（第2～5回ワークショップ）

なぜ使わないか

○そもそも使えない

- ・公共交通が走っていない、使いたいときに走っていない、保健所や役所など色々なところをまわるルートになっていない
- ・高齢者や障害者などが利用したくても使えない（車両や駅の段差など）
- ・大規模な集客施設は、車で来ることが前提でつくられている

○公共交通の大切さを自覚していない

- ・大人が理解していない
- ・実際に使っていないからわからない

○公共交通のよさをPRできていない

- ・公共交通のこと（便利なことなど）

○車の方が便利だから使わない

- ・ドアツードアのサービス、安い（あいのり）、早い（急ぐとき）、融通がきく、雨のとき・荷物があるときに便利

○不便だから使わない、使いづらいから使わない

- ・運賃が高い（泉北高速）
- ・スルッとKANSAIを阪堺線で使えない

公共交通の良いところ

- ・時間が短くてすむ、たくさん運行されていて便利（堺東シャトルバス）
- ・料金が安い（阪堺線）
- ・時間が正確（時間がきまっている目的の場合（関空リムジンバス、通勤など）に便利）

どうしたらいいか？（第2～5回ワークショップ）

市民がやるべきこと

- ・利用しなければ公共交通が維持できないといった危機意識をみんながもつことが必要
- ・乗る努力をする、なるべく公共交通を利用する
- ・公共交通をみんなが使うように周りの人などに宣伝する
- ・公共交通の大切さを常に行政や事業者にうたえ続ける

どのような働きかけがあれば利用するか

教育する

- ・公共交通の大切さを教育する（一人ではできない。学んでいくことが大事）
- ・マナーをよくするように教育する
- ・車を利用しない、自分から行動するように意識を変える

便利にする

- ・使いやすい、使おうと思えば使える環境を整える
- ・事業者も頑張る

楽しくする、おもしろくする

- ・公共交通を利用することが、楽しい、おもしろいと感じられるようにする

PR・周知する

- ・知らないから利用しない
- ・便利なことお得なことをPRする

上記に属しない方策

- ・公共交通の利用を促進する制度を整える・見直す／公共交通の大切さ、あり方を考える体制をつくる／自動車を使いにくくする など



具体的な方策（次項で整理）

教育する

大人に対して

公共交通の大切さを学べる機会を設ける ◎

⇒地球のことを考えて、公共交通を使うことの大事さを理解できるように
⇒市民や市職員が公共交通を利用する機会を設ける（公共交通を利用するツアーを実施する）など

子どもに対して

子どもが公共交通を使う機会を設ける

⇒地球のことを考えて、公共交通を使うことの大事さを理解できるように（自己中心ではない教育）

便利にする

※利便性向上班などで詳しく検討

高齢者などに対して

だれもが乗りやすいようにする

⇒車両や駅のバリアフリー化、係員による移動の補助 など

市民に対して

料金を安くする／乗り降りを便利にする／使いやすい路線に再編する／定時性を確保するなど

楽しくする、おもしろくする

未婚の人に対して

公共交通の車両で婚活ツアーを企画する ◎

⇒市が少子化対策として事業者に働きかける

観光客に対して

いろんな観光名所とタイアップしてツアーを組む（観光客向けの回遊バスを走らせる） ◎

⇒市や事業者：乗り放題チケットを販売

⇒市民が観光コンベンションでガイドする（ボランティアガイド）

PR・周知する

車を使っている人などに対して

「〇〇まで〇〇分、〇〇方向はこちら」「〇〇まで△△円」「終電の時間」など表示する ◎

⇒電車の窓、車体の外、駅の出入口、車が通る立橋、踏み切りなどで表示

市民に対して

料金、所要時間、運行ルートなどを説明した広報を各家庭に配る

⇒くり返し行って意識をすりこんでいく（「広報さかい」で発信）

前掲の分野に属さない方策

利用者の実態に合ったニーズを把握する ◎

- ⇒こども、高齢者、障害者など、実際に利用している人の目線で考える
- ⇒現実的に必要とされているルート・便数・時間帯など

公共交通の利用を促進する制度を整える・見直す ◎

- ⇒公共交通の利用を促進するような制度をつくる
（休日1000円など高速道路料金施策などは逆の政策）

公共交通の大切さ、あり方を考える体制をつくる ◎

- ⇒利用促進の方法をこれからも考える
（事業者だけで考えるには無理がある。時間も人材も必要のため、組織をつくるなど考える組織体制が必要）
- ⇒堺にたくさんある大学や高校でどうすれば利用するかなどを考えてもらう
（若い人の考えを取り入れた対策を考えることも重要）

議論を進める中
で気付いたこと

利用促進の枠を超えて（利用促進を考える前に）、市民のライフスタイル・考え方、行政の考えの根本から変えることを目指さないといけない